

令和4年2月3日

小規模事業者景況調査報告書

(2021年7-12月期)

福島市商工会広域連携協議会

(飯坂町商工会・松川町商工会・飯野町商工会)

(本資料のお問合せ先)

福島市商工会広域連携協議会 (松川町商工会内)

電話：024-567-2265/F A X：024-567-2364

調 査 概 要

1. 調査対象

この調査は、福島市商工会広域連携協議会（飯坂町商工会・松川町商工会・飯野町商工会）の小規模事業者の景況を調査したものである。

■対象企業数及び業種別内訳

・製造業	15社	
・建設業	15社	
・卸・小売業	17社	
・サービス業	19社	合計 66社

2. 調査対象期間

2021年7月～2021年12月期を対象とし、調査時点は2022年1月25日とした。

3. 調査方法

- (1) 福島市地区内商工会の職員による訪問面接等による調査
- (2) 各商工会の会員数を勘案して地区割りを行い、調査対象企業の抽出は業種等有意選出方法による。

【本報告書で用いる用語の解説】

(1) 小規模事業者（小規模企業者）の定義

業 種	中小企業者 (下記のいずれかを満たすこと)		小規模企業者
	資本金の額又は 出資の総額	常時使用する 従業員の数	常時使用する 従業員の数
① 製造業、建設業、運送業	3億円以下	300人以下	20人以下
② その他の業種（②～④を除く）			
③ 卸売業	1億円以下	100人以下	5人以下
④ サービス業	5,000万円以下	100人以下	5人以下
⑤ 小売業	5,000万円以上	50人以下	5人以下

(2) DI(ディー・アイ)

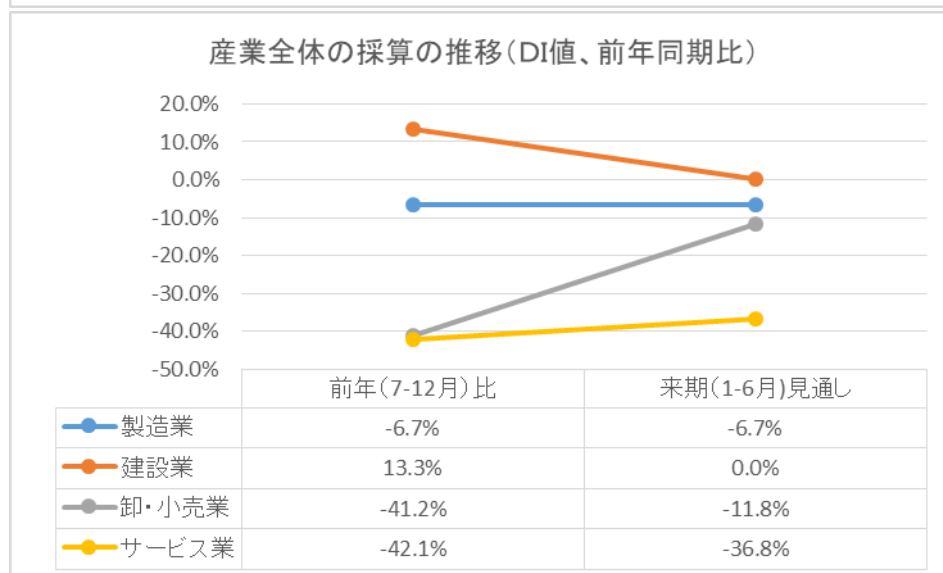
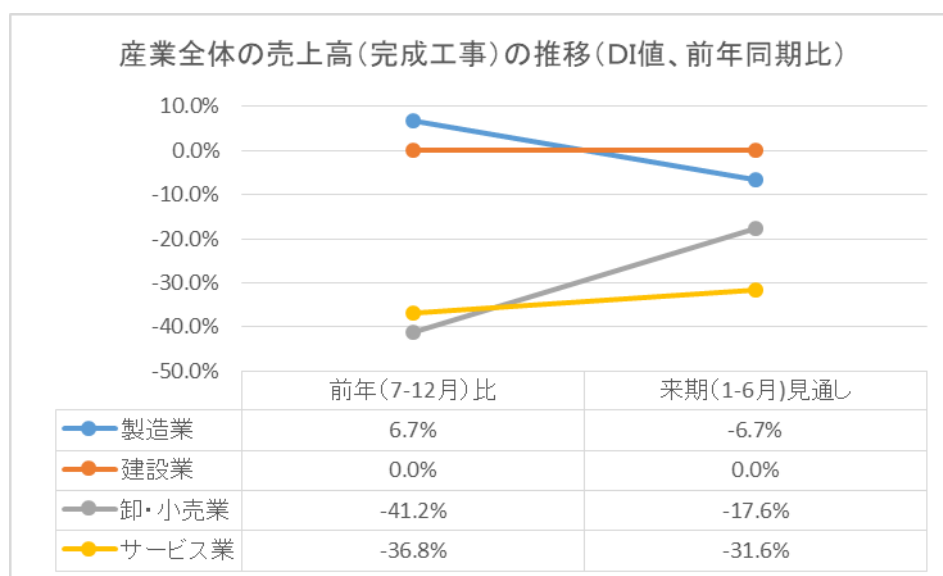
Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、企業の景況を示すいくつかの指標をアンケート調査して、その判断を指数化したもの。

各判断項目について3個の選択肢を用い、選択肢毎の回答者数を単純計算し、増加（上昇・好転）の割合から減少（低下・悪化）の割合を差し引いた方法で算出している。

1. 産業全体の景況概要

福島市商工会地区における今期（2021年7月～12月期）の小規模事業者景況調査によると、前期同期と比較して、売上額（完成工事額）では製造業6.7%、建設業0.0%だったが、卸・小売業△41.2%、サービス業△36.8%と、業種により異なる景況感となった。





















また、今期DI値と比較した来期（2022年1月～6月期）の見通しは、売上額（完成工事額）では、製造業△6.7%（13.4ポイント悪化）、建設業0.0%（変動なし）、卸・小売業△17.6%（23.6ポイント改善）、サービス業△31.6%（5.2ポイント改善）と、製造業は悪化の見通し、卸・小売業及びサービス業は好転の見通しとなっている。























全国及び福島県内と福島市商工会地区のお天気マークを比較した結果は下記表のとおりである。福島市商工会地区の製造業及び建設業、卸・小売業については、県内調査よりも、売上及び採算ともに好転する見通しとなっている。一方、福島市商工会地区のサービス業は、全国及び県内調査よりも厳しい景況感となっている。

産業全体のお天気マーク（前年同期比）







■売上状況

業種	実績			見通し		
	全国	県内	福島市 商工会地区	全国	県内	福島市 商工会地区
製造業	△3.3% 	△23.9% 	△6.7% 	—	△10.9% 	△6.7% 
建設業	△9.0% 	△11.1% 	0.0% 	—	△44.5% 	0.0% 
卸・小売業	△8.5% 	△50.9% 	△41.2% 	—	△41.8% 	△17.6% 
サービス業	△5.6% 	△15.4% 	△36.8% 	—	△4.6% 	△31.6% 

■採算状況

業種	実績			見通し		
	全国	県内	福島市 商工会地区	全国	県内	福島市 商工会地区
製造業	△37.0% 	△26.6% 	△6.7% 	—	△17.8% 	△6.7% 
建設業	△42.1% 	△25.0% 	13.3% 	—	△41.6% 	0.0% 
卸・小売業	△28.8% 	△45.5% 	△41.2% 	—	△34.6% 	△11.8% 
サービス業	△23.4% 	△22.2% 	△42.1% 	—	△9.5% 	△36.8% 

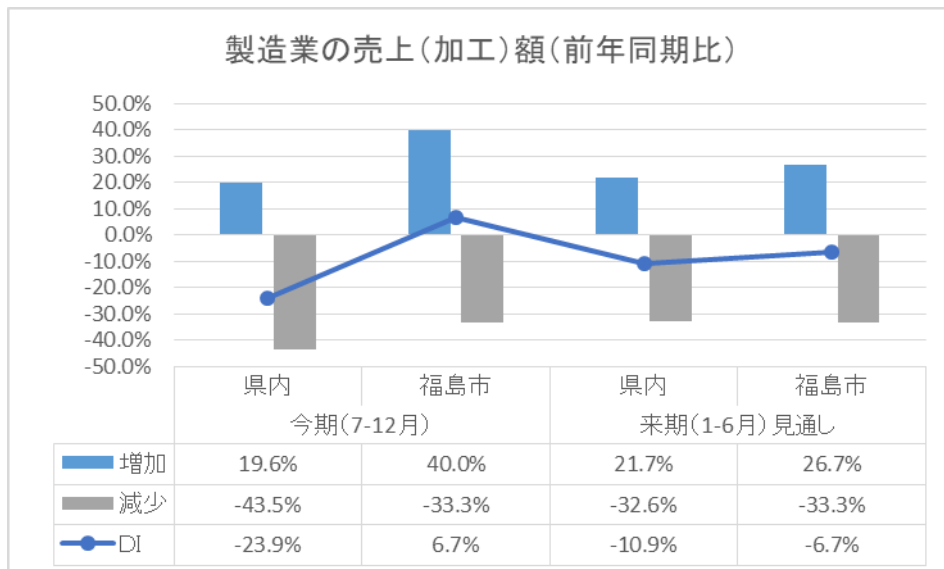
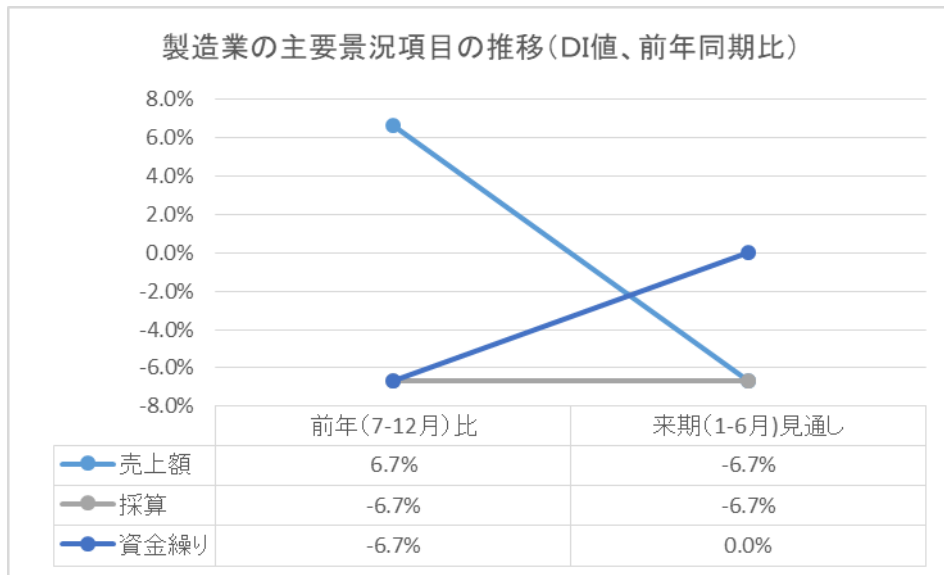
※全国のは、全国商工会連合会が全国約 300 商工会の経営指導員を対象に、2021 年 12 月期の景況調査を実施した結果で、実績値のみの調査となっている。また、県内の値は、福島県商工会連合会が県内 210 企業を対象に、2021 年 10 月から 12 月の景況調査を実施した結果である。

＜お天気マークの説明＞ ※マークは各指標の DI 値を表す					
+15%以上		晴	+5%～+14.9%		薄日
-5%～-14.9%		小雨	-15%～-49.9%		雨
			±4.9%		曇
			-50%以下		大雨

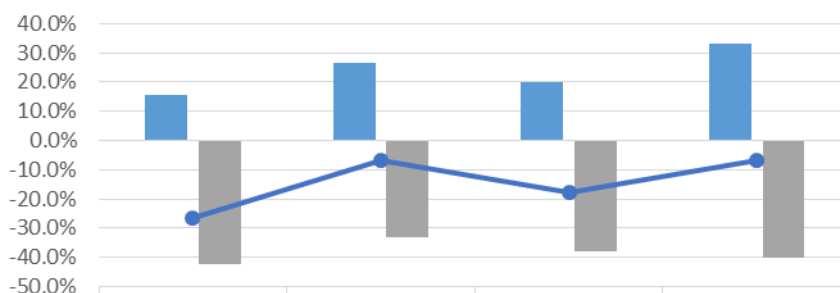
2. 製造業

今期（2021年7月～12月期）の実績DI値は、売上（加工）額は6.7%とプラス指標だったが、採算と資金繰りはいずれも△6.7%とマイナス指標となった。

来期（2022年1月～6月期）の見通しDI値は、今期と比較して、売上（加工）額△6.7%（13.4ポイント悪化）、採算△6.7%（変動なし）、資金繰り0.0%（6.7ポイント改善）と、売上（加工）額は悪化するが、採算は横ばい、資金繰りは改善する見通しとなっている。

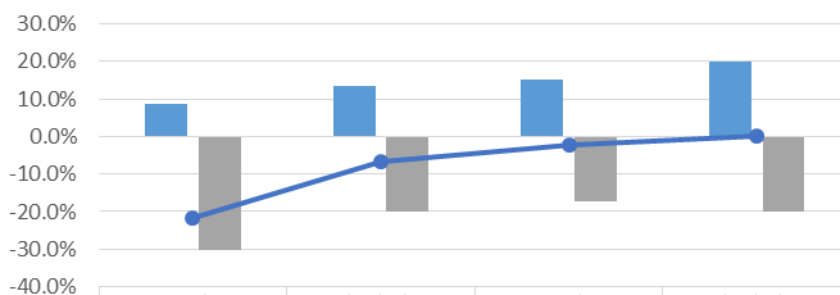


製造業の採算の状況(前年同期比)



	県内 今期(7-12月)	福島市 今期(7-12月)	県内 来期(1-6月)見通し	福島市 来期(1-6月)見通し
■ 好転	15.6%	26.7%	20.0%	33.3%
■ 悪化	-42.2%	-33.3%	-37.8%	-40.0%
● DI	-26.6%	-6.7%	-17.8%	-6.7%

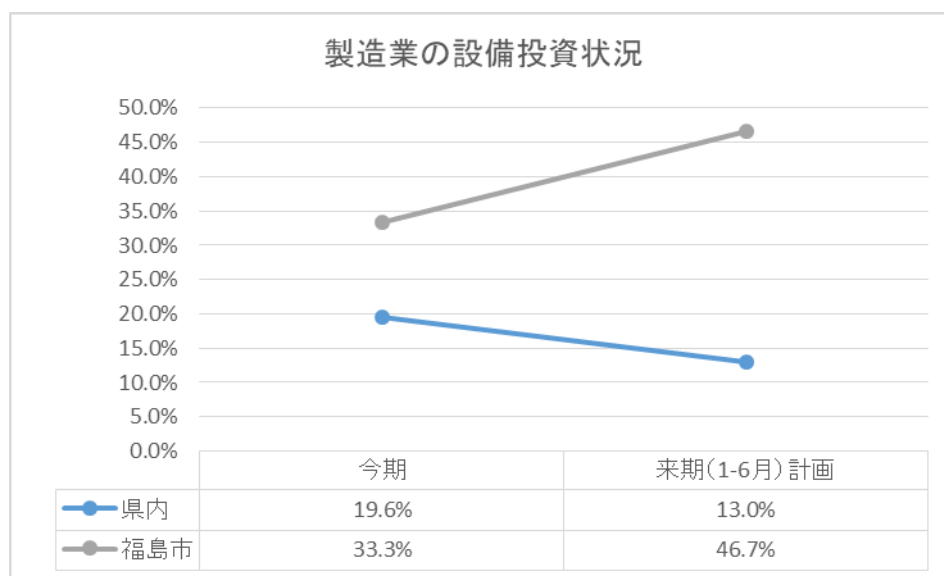
製造業の資金繰りの状況(前年同期比)



	県内 今期(7-12月)	福島市 今期(7-12月)	県内 来期(1-6月)見通し	福島市 来期(1-6月)見通し
■ 好転	8.7%	13.3%	15.2%	20.0%
■ 悪化	-30.4%	-20.0%	-17.4%	-20.0%
● DI	-21.7%	-6.7%	-2.2%	0.0%

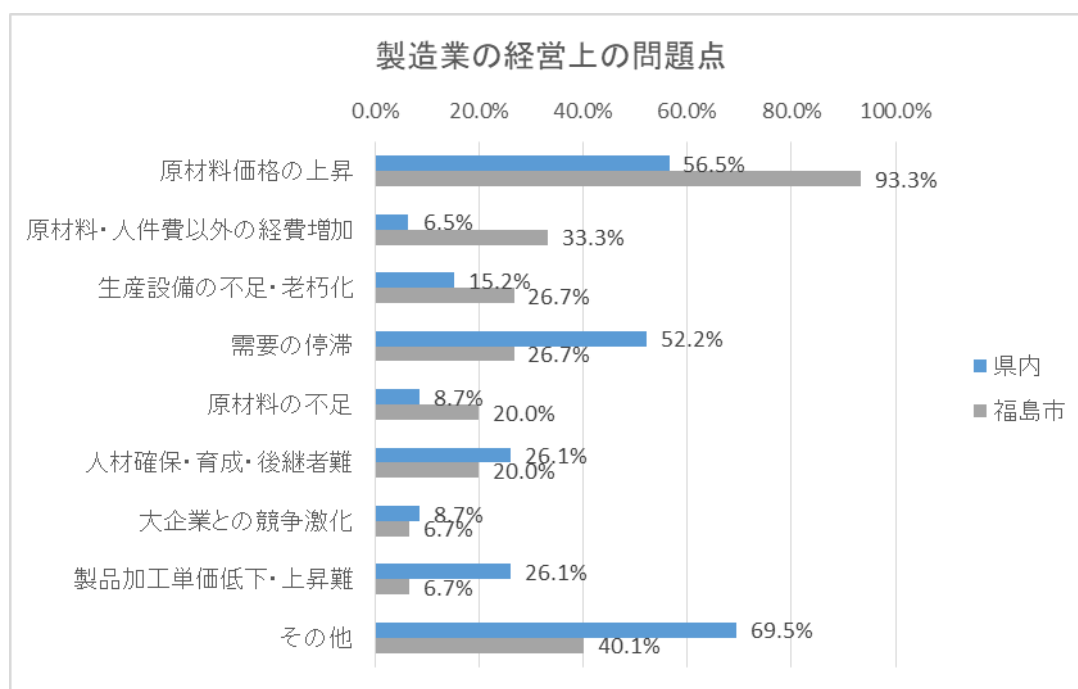
今期の設備投資企業は33.3%（5社）となった。投資内容は、建物、生産設備、OA機器となっている。

また、来期に設備投資を計画している企業46.7%（7社）であり、計画している投資内容は、土地、建物、生産設備、車両運搬具、付帯設備となっている。



企業が挙げた問題点（第1位～3位合計）は、「原材料価格の上昇」が93.3%、「原材料・人件費以外の経費増加」が33.3%、「生産設備の不足・老朽化」及び「需要の停滞」が26.7%と高い値となっている。

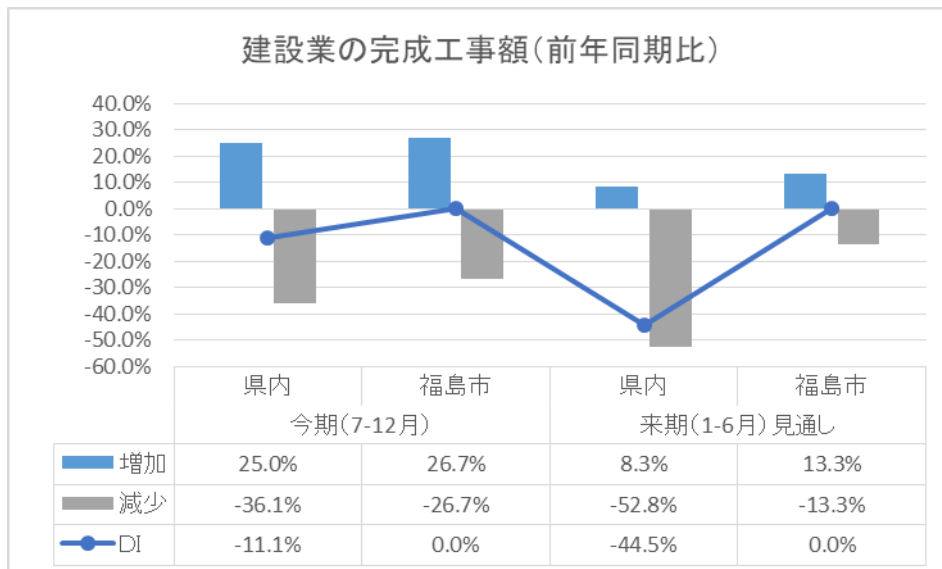
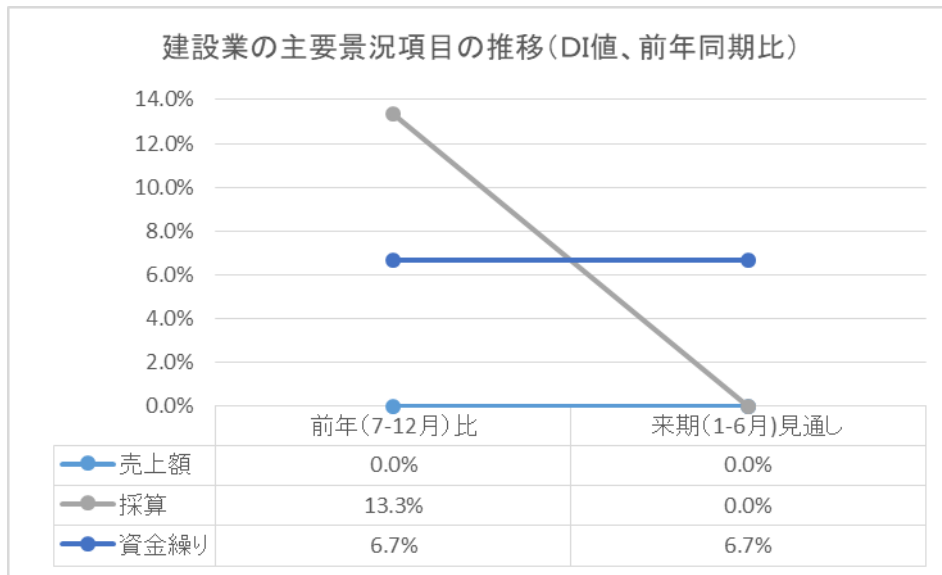
県内全体と比較すると、「原材料価格の上昇」、「原材料・人件費以外の経費増加」、「原材料の不足」といった問題を抱える割合が大きくなっている。



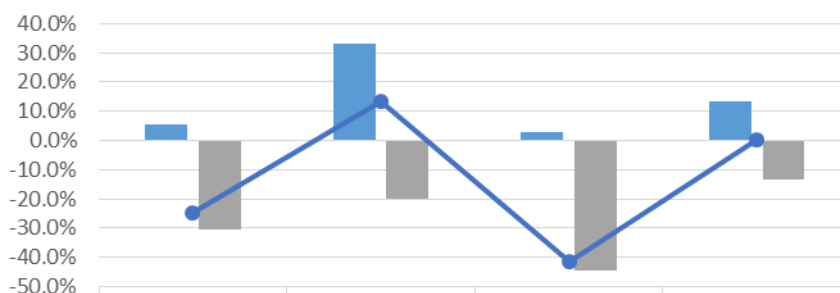
3. 建設業

今期（2021年7月～12月期）の実績DI値は、完成工事額0.0%、採算13.3%、資金繰り6.7%と、完成工事額を除きプラス指標となった。

来期（2022年1月～6月期）の見通しDI値は、今期と比較して、完成工事額0.0%（変動なし）、採算0.0%（13.3ポイント悪化）、資金繰り6.7%（変動なし）と、完成工事額と資金繰りは横ばいだが、採算は悪化する見通しとなっている。

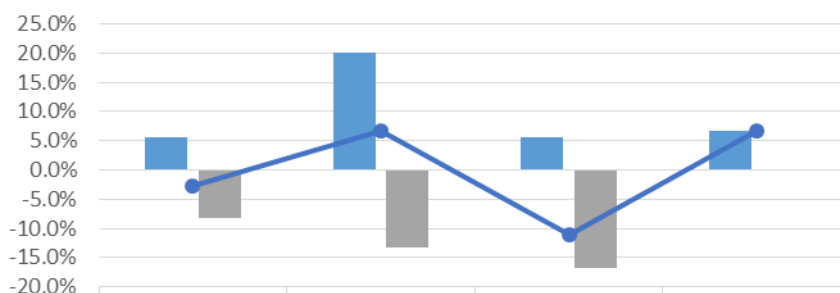


建設業の採算の状況(前年同期比)



	県内 今期(7-12月)	福島市 今期(7-12月)	県内 来期(1-6月)見通し	福島市 来期(1-6月)見通し
■ 好転	5.6%	33.3%	2.8%	13.3%
■ 悪化	-30.6%	-20.0%	-44.4%	-13.3%
● DI	-25.0%	13.3%	-41.6%	0.0%

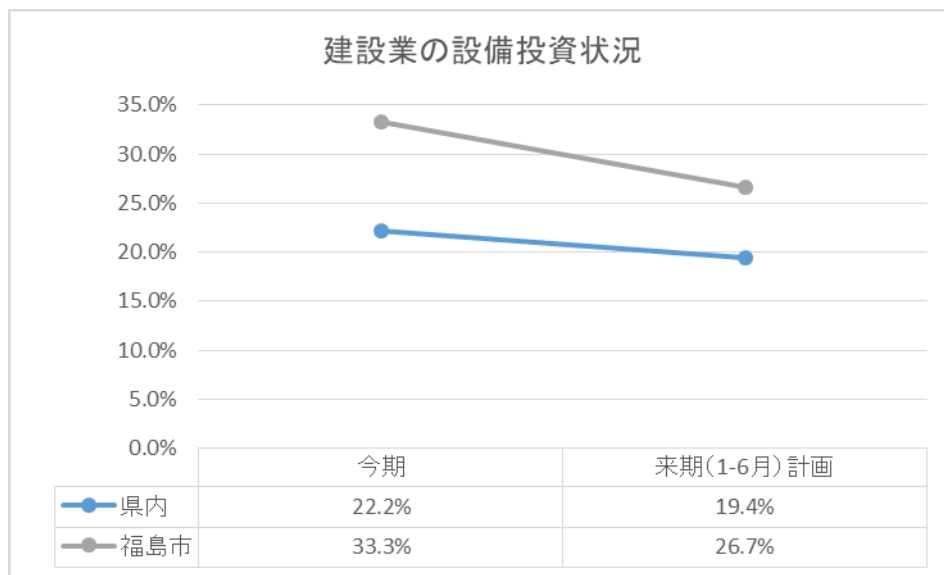
建設業の資金繰りの状況(前年同期比)



	県内 今期(7-12月)	福島市 今期(7-12月)	県内 来期(1-6月)見通し	福島市 来期(1-6月)見通し
■ 好転	5.6%	20.0%	5.6%	6.7%
■ 悪化	-8.3%	-13.3%	-16.7%	0.0%
● DI	-2.7%	6.7%	-11.1%	6.7%

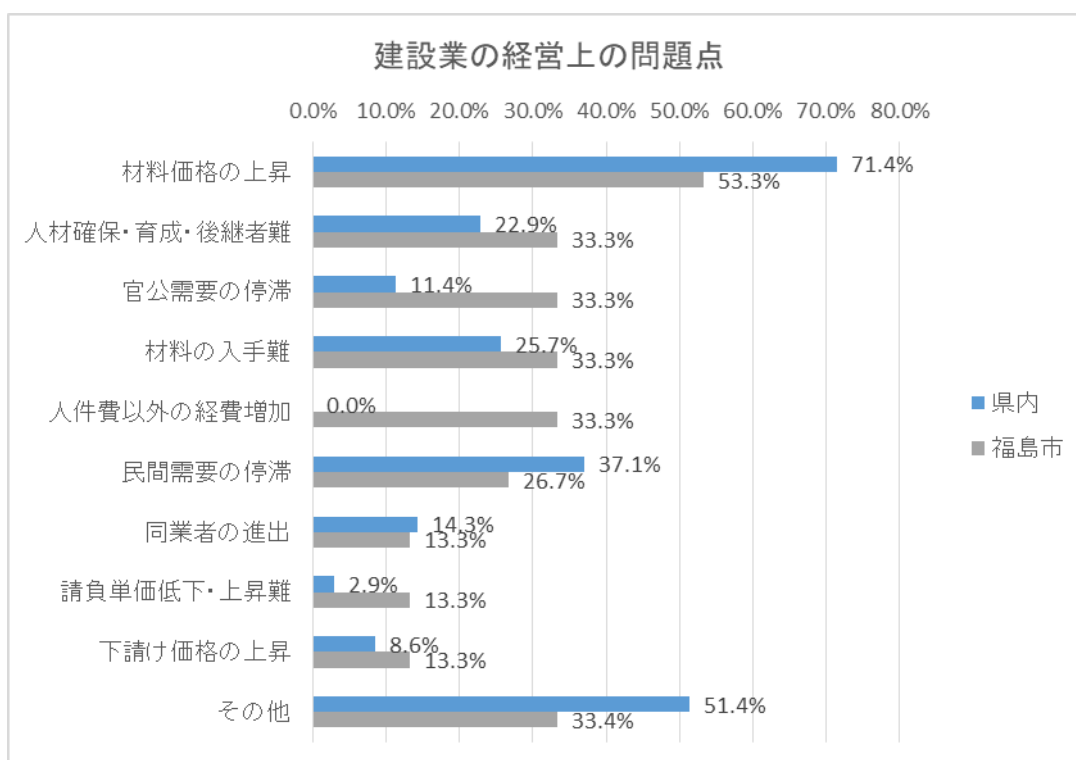
今期の設備投資実施企業は 33.3%（5 社）となった。投資内容は、土地、建物、建設機械、車両運搬具、OA 機器となっている。

また、来期に設備投資を計画している企業は 26.7%（4 社）であり、計画している投資内容は、土地、車両運搬具となっている。



企業が挙げた問題点（第 1 位～3 位合計）は、「材料価格の上昇」が 53.3%、「人材確保・育成・後継者難」及び「官公需要の停滞」、「材料の入手難」、「人件費以外の経費増加」が 33.3%と高い値となっている。

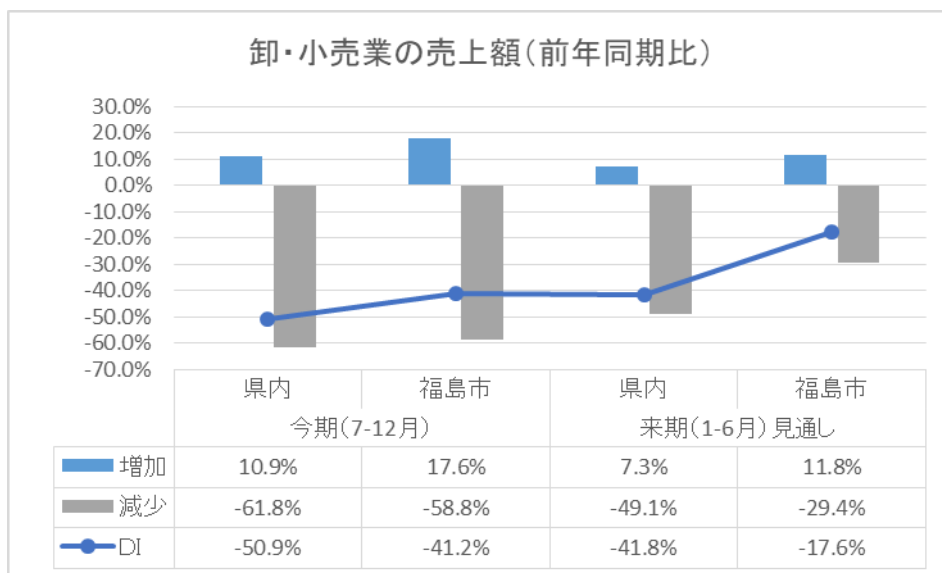
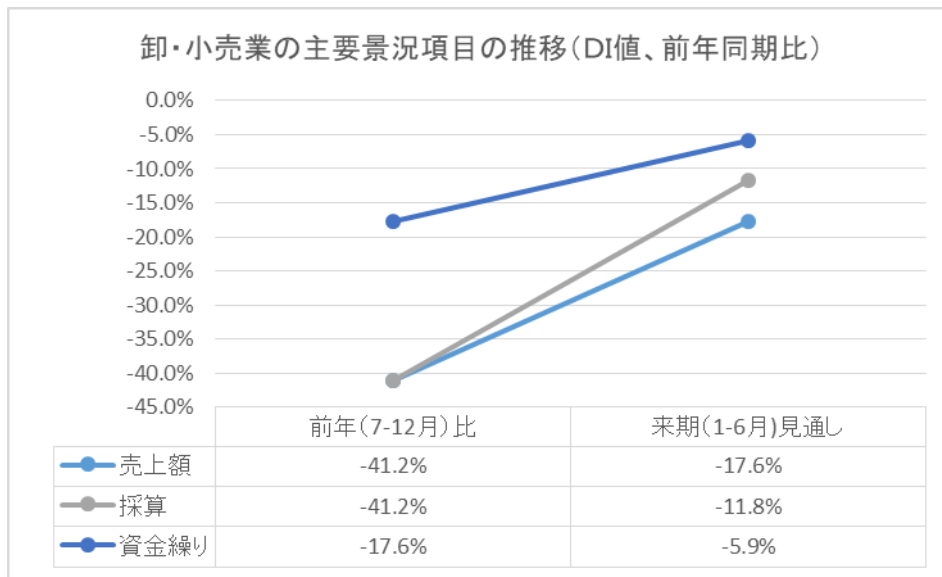
県内全体と比較すると、「官公需要の停滞」、「人件費以外の経費増加」、「請負単価低下・上昇難」といった問題を抱える割合が大きくなっている。



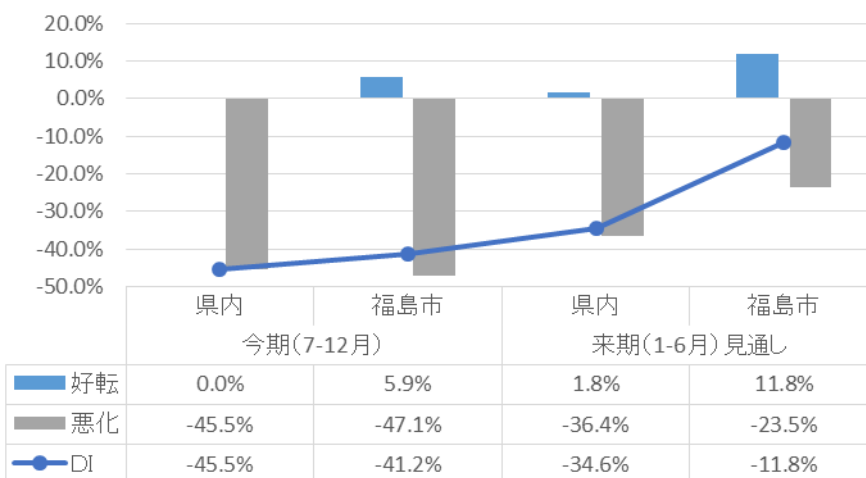
4. 卸・小売業

今期（2021年7月～12月期）の実績 DI 値は、売上高△41.2%、採算△41.2%、資金繰り△17.6%と、全ての項目においてマイナスの値となっている。

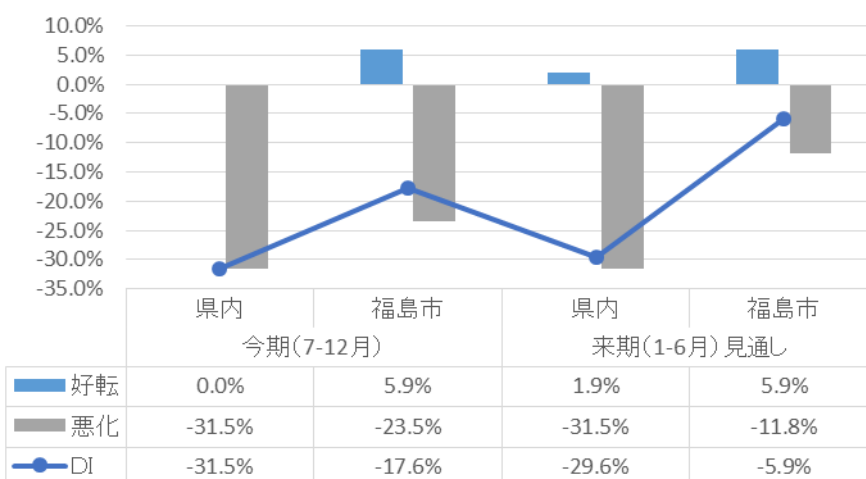
来期（2022年1月～6月期）の見通し DI 値は、今期と比較して、売上高△17.6%（23.6ポイント改善）、採算△11.8%（29.4ポイント改善）、資金繰り△5.9%（11.7ポイント改善）と、全項目で改善する見通しではあるが、マイナス指標で推移しており、厳しい状況が続く見通しとなっている。



卸・小売業の採算の状況(前年同期比)

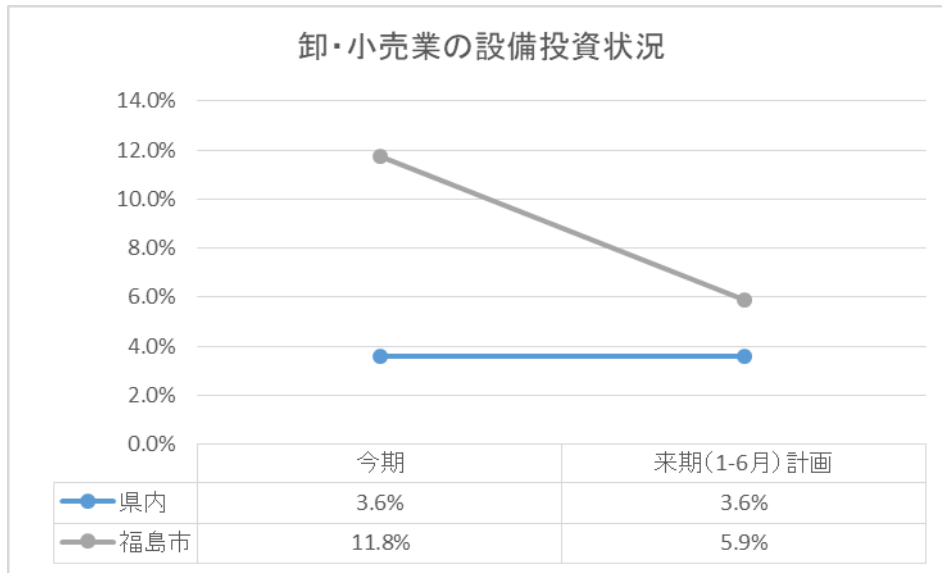


卸・小売業の資金繰りの状況(前年同期比)



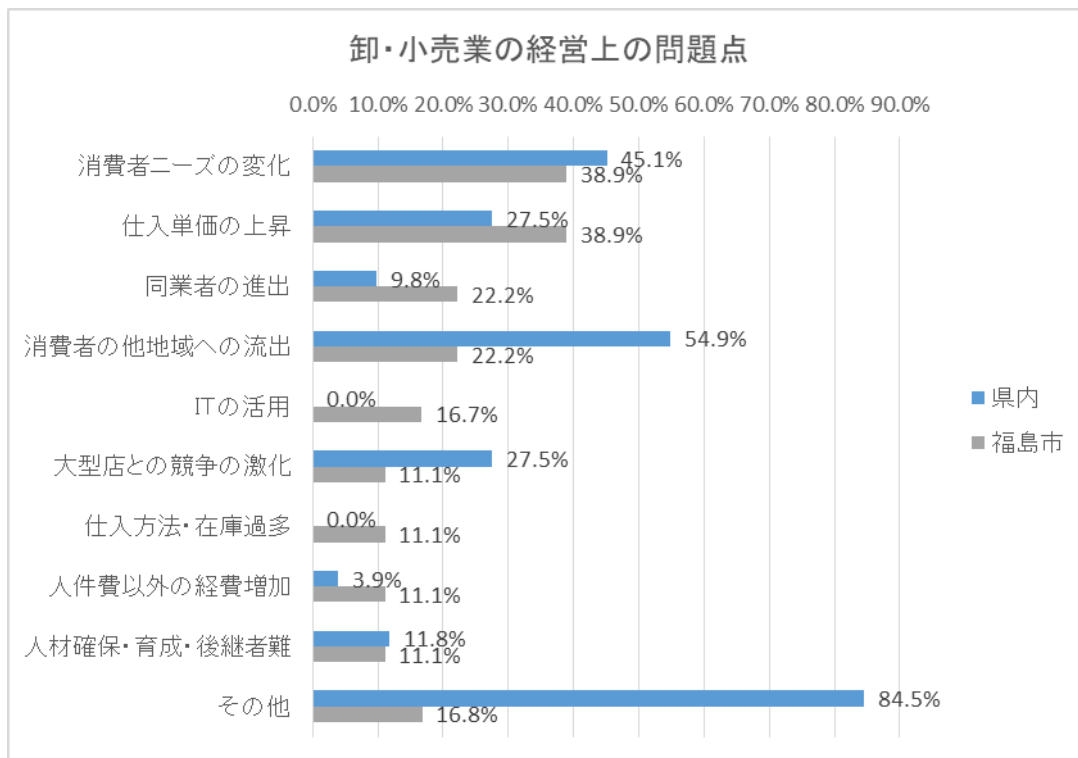
今期の設備投資実施企業は11.8%（2社）となった。投資内容は、付帯設備、OA機器となっている。

また、来期に設備投資を計画している企業は5.9%（1社）であり、計画している投資内容は、付帯設備となっている。



企業が挙げた問題点（第1位～3位合計）は、「消費者ニーズの変化」及び「仕入単価の上昇」が38.9%、「同業者の進出」及び「消費者の他地域への流出」が22.2%と高い値となっている。

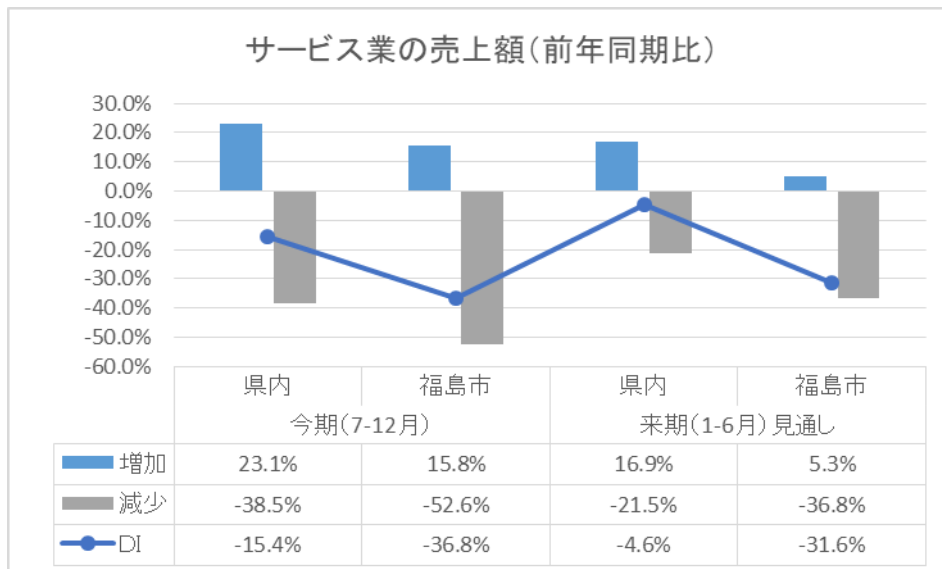
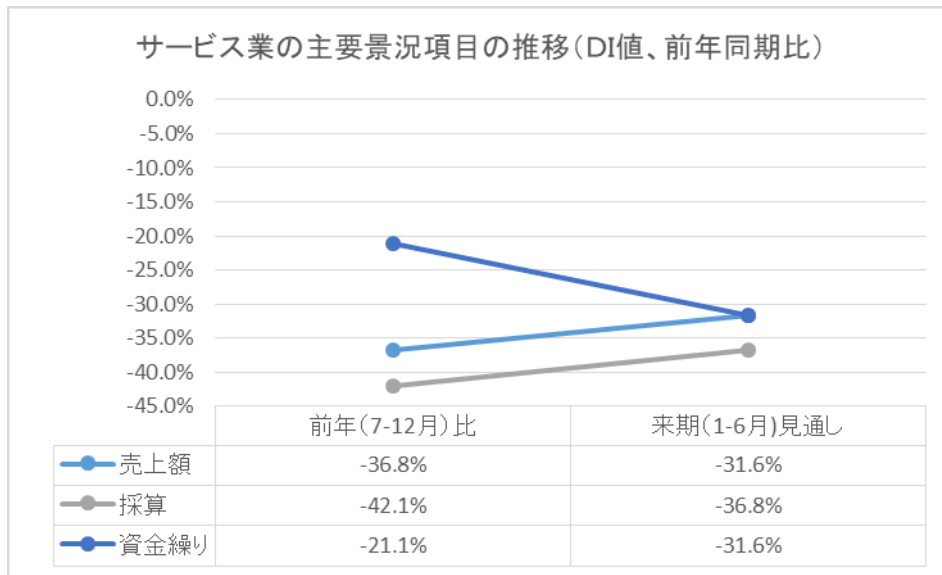
県内全体と比較すると、「同業者の進出」、「ITの活用」、「仕入方法・在庫過多」といった問題を抱える割合が大きくなっている。



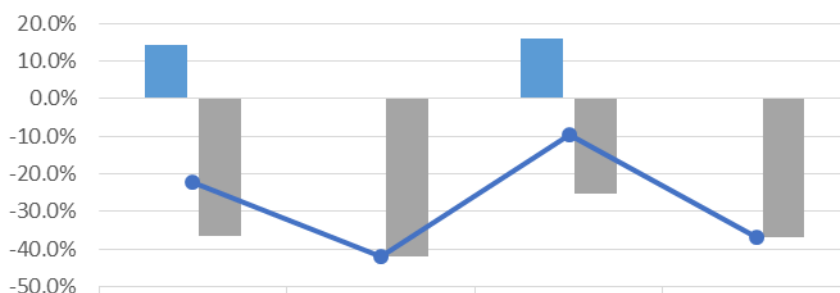
5. サービス業

今期(2021年7月~12月期)の実績DI値は、売上額△36.8%、採算△42.1%、資金繰り△21.1%と、全ての項目においてマイナスの値となっている。

来期(2022年1月~6月期)の見通しDI値は、今期と比較して、売上額△31.6%、(5.2ポイント改善)、採算△36.8%(5.3ポイント改善)、資金繰り△31.6%(10.5ポイント悪化)と、売上額と採算は改善する見通しであるが、資金繰りは悪化する見通しとなっている。

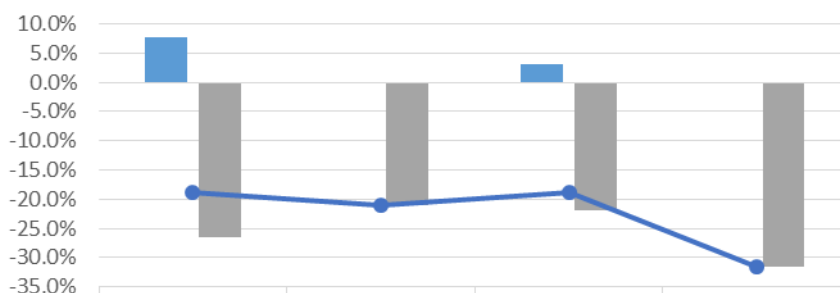


サービス業の採算の状況(前年同期比)



	県内 今期(7-12月)	福島市	県内 来期(1-6月)見通し	福島市
■ 好転	14.3%	0.0%	15.9%	0.0%
■ 悪化	-36.5%	-42.1%	-25.4%	-36.8%
● DI	-22.2%	-42.1%	-9.5%	-36.8%

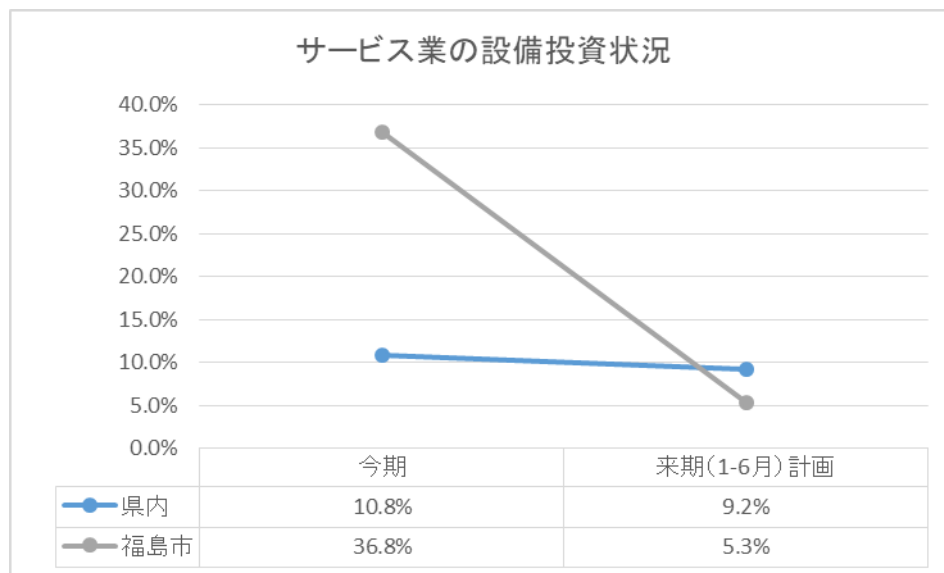
サービス業の資金繰りの状況(前年同期比)



	県内 今期(7-12月)	福島市	県内 来期(1-6月)見通し	福島市
■ 好転	7.8%	0.0%	3.1%	0.0%
■ 悪化	-26.6%	-21.1%	-21.9%	-31.6%
● DI	-18.8%	-21.1%	-18.8%	-31.6%

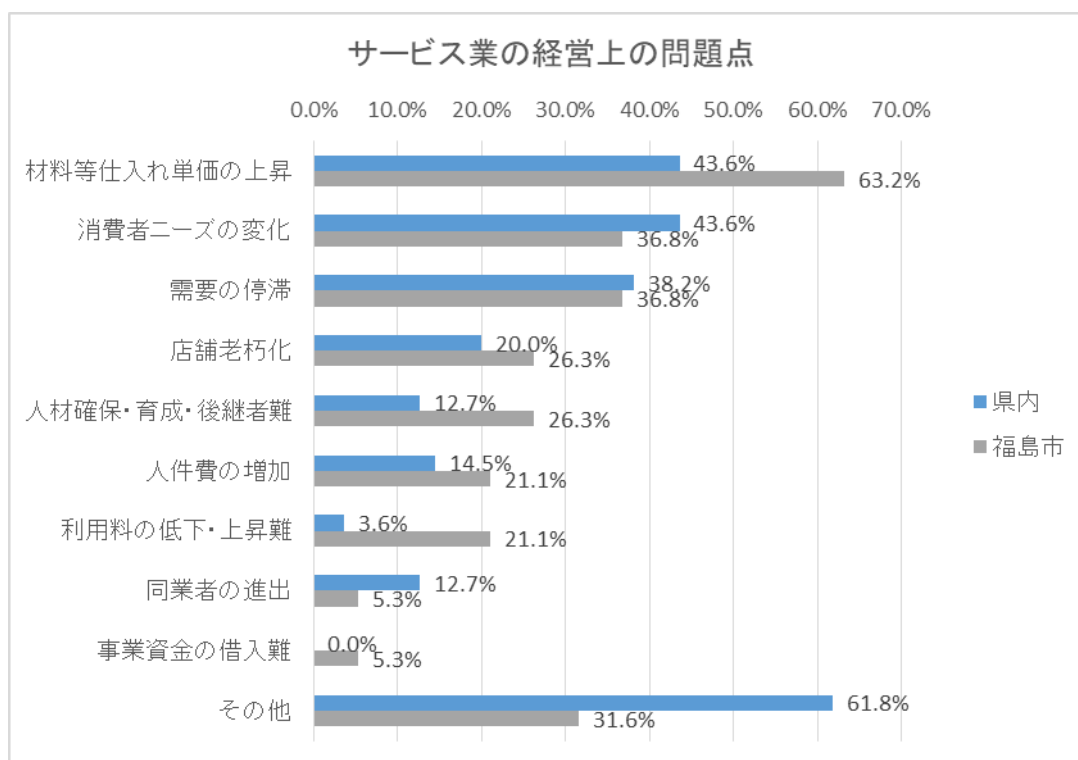
今期の設備投資実施企業は36.8%（7社）となった。投資内容は、サービス設備、付帯設備、OA機器、その他となっている。

また、来期に設備投資を計画している企業は5.3%（1社）であり、計画している投資内容は、車両運搬具となっている。



企業が挙げた問題点（第1位～3位合計）は、「材料等仕入れ単価の上昇」が63.2%、「消費者ニーズの変化」及び「需要の停滞」が36.8%と高い値となっている。

県内全体と比較すると、「材料等仕入れ単価の上昇」、「人材確保・育成・後継者難」、「利用料の低下・上昇難」といった問題を抱える割合が大きくなっている。



～業況判断の背景（調査対象企業のコメント）～

【製造業】

- ・コロナで先が見えない。
- ・2021年6月から一転して活況となっており、鋼材価格が約2倍まで高騰するも、流通はかろうじて回っている。しかし、お客様の方で各種原材料や部品の入手難に陥っており、生産調整が今後入るかも知れず、安心はできない。
- ・今年はコロナ感染症の影響は少なくなると考える。東南アジアでの状況が改善されれば経済は回ると思われる。日本全体で海外勢に買い負けていない点が、今後の問題となりそうだ。日本全体の賃金の底上げが必要で、特に小規模事業者の底上げが必要。
- ・コロナ感染がおこらないよう、注意を社員全員に呼び掛けている。恐ろしい。
- ・開業して30年になりますが、加工賃が当時より上昇せず、受注産業として頭が痛いところ。同業者の従業員たちにも賃金アップして、この国のものづくりを頑張っている人たちに豊かになってもらいたい。
- ・原材料価格の悪化（高騰）。原油高騰による製品輸送コストの増加。

【建設業】

- ・工事の依頼があっても、コロナ禍により資材が入らない場合があり、来年度へ持ち越しとなった案件が多くある。
- ・見積書を提出した時より、実際に工事する際に資材価格が上がっている場合がある。
- ・昨年は、業務上関係のある公的機関の職員がコロナ感染症になり、しばらく業務が滞った事があった。今回のオミクロン株はさらに感染力が強いとみられ、業者との対応、お客様との面談などに更なる注意が必要と思われる。
- ・輸入木材価格の上昇と共に関連資材価格も上昇しており、見積書が1カ月を過ぎると書き直している。
- ・会合等がないため、同業者や他業者の色々な情報（仕事量、資材の値上がり状況）を得る機会がない。
- ・前期から引き続き経営体質の改善を進めており、業績に結び付いているように思われる。特段コロナの業況への影響はないが、従業員に濃厚接触者が出るなど、社会情勢や対策対応に振り回された感は否めない。今後も引き続き業務の改善に努めていく方針は変わらず、商工会には情報提供の面で期待しているので、今後ともよろしく願いいたします。

【卸・小売業】

- ・コロナの影響か、まだまだ人の出が少ないので店売りの方は人が戻ってこない。
- ・温泉地のため、宿泊客の減少の影響があります。県民割クーポンは、利用するお客様がいるので続けてほしいです。
- ・観光地のため、人の移動、宴会が増えれば助かる。コロナ禍で全く採算が取れない、借金でなんとか凌いできたが、第6波がきたら廃業も考えるしかない。
- ・コロナ禍になってから、取引していた旅館の売上がほぼゼロなので、その分の売上補填が困難

になっている。

- ・コロナの影響で直接お客様を訪問できないため、どの様に営業していくかが課題。
- ・ガスは年間に数件の減少。イベントも中止となり売上が減っている。12月からガスの仕入金額が上がったが、値上げはしなかった。まだ高くなるのであれば値上げするしかない。灯油は12月に雪が降ったため売上増加。雑貨は大きな影響はなかったが、近隣地区に同業者が出店しているため不安がある。

【サービス業】

- ・県民割の影響で好転しているが、今後の心配である。
- ・観光客を相手に商売しているので年末年始の移動によるオミクロン株の感染拡大が懸念される。
- ・新型コロナウイルスの影響で売上が落ちている、現在は落ち着いているが昨年のように年末年始に流行するとまた売上が落ちてしまい客も戻らない、このままでは不安である。
- ・観光面ではバスの運行が全くなく、まだまだコロナの影響が続いている。感染者が減ったとはいえ、元に戻るのなかなか難しいと思われる。タクシーは、12月頃から雪が降り多少売上が上がっている。
- ・コロナ感染の収束の兆しが見えてきたが、オミクロン株の感染拡大によりお客様の流れがまた激減すると思われる。これからの先行きが不安であるが、今は耐えるしかない。
- ・当社はコロナの影響はあまり受けていないようだが、感染防止対策のため消毒系の支出が増えている。
- ・コロナ禍における予約が低迷しており、感染拡大防止で集客の半減などがある。そして原油価格高騰による仕入価格の値上がりがあり、粗利率が悪化している。
- ・コロナ感染防止の徹底。業況注視し経営にあたる。
- ・コロナ禍により旅行需要の停滞が続いている。感染減少と、国や県の消費喚起事業によって、一時的に消費回復するものの、感染が再拡大すると旅行を控える状態の繰り返し。
- ・コロナにより見通し立たず。10月頃は少し売上もあったが、宴会はほとんどない。テイクアウトに力を入れている。インスタも始め情報発信はしている。
- ・コロナの影響で売上が左右されるので不安。ガソリンの値上げが大変。